

何をそれ以上望もうか

七月三十日 木曜日

寝台列車でなく、  
普通の座席のまま、  
皆、床にゴロ寝。

朝、列車のデッキに出て、  
日の出をみる。  
気持ちがいい。

両側、長々と延々に続く  
水田、たんぼの中を、  
風を切り、列車はすすむ。

朝早く、京都駅着で、解散。

ひさしぶりの家、変わりない、静か。  
皆、暑くて昼寝。

安田の家に行く。  
安田の女友達が来ている。  
二人で庭で写真を取る仲だ。  
そばで、僕はうらやましく見る。  
遠慮してすぐ帰る。

七月三十一日 金曜日

安田が家に来て、いろいろ話する。  
昨日の女友達の説明も受ける。